
電気豚の餌は黒歴史

只野底辺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電気豚の餌は黒歴史

【Nコード】

N7168U

【作者名】

只野底辺

【あらすじ】

俺は電気豚を育てていた。

デスクトップ上を走りまわる電気豚を、俺は見つめた。きっと冷めた目をしているのだと思う。養豚場の豚を見る眼、というやつだ。その電気豚は、精緻な外見であった。点が集まり線を成し、骨格にはワイヤーフレームが埋め込んであるのかもしれないが、ともかく、写真に見るような豚と全く変わったところはない。異なる点は、それが現実に存在する豚ではない、というそれだけのことだ。ゆえにそれは、いかに精巧に豚を模していようと、豚ではなく電気豚なのだった。毎日のように見続け、ゆえに見慣れた電気豚に、俺は大した感慨を抱かない。

俺は、餌とラベルの付けられたフォルダから、テキストファイルをドラッグアンドドロップして、デスクトップの適当なところに放り出す。すると電気豚は、猛然とスクリーンを駆け出し、そのテキストに食らいついた。

餌。即ちそれこそが、電気豚を育てる飼料だった。くその役にも立たない妄想と変わらない駄文——つまりは黒歴史小説——であったが、なかなかどうして、役に立つことはあるものだ。凄まじい勢いでテキストファイルの容量が減少していく。

——. . . 103 KB . . . 92 KB . . . 75 KB . . .
60 KB . . . 48 KB . . . 32 KB . . .

そこでファイルサイズの値は停止した。電気豚は満足気にテキストファイルに背を向ける。不思議なことに、電気豚の食事はファイルサイズに依存しない。たかだか1MBにも満たないテキストファイルは食い残すくせ、300GBを超えるアダルトゲームのインストールデータは一呑みにし、更なるデータを催促する。まるでウイルスのような、電気豚の際限ない食欲を抑えこむためには、妄想の掃き溜めが最良であった。

家畜として悪食ではないのだろう。俺だって、他人の黒歴史を突き

つけられたら、げつぶが止まらなくなるに違いない。——電気豚の不平不満を聞いたことはないから、実のところ、理由は全く定かではないが。

ひとしきり電気豚の面倒を見る作業を終える。時計はまだ十時を指していた。俺は何気なくメッセージャーにサインインする。目的はなく、ただの日課だ。すると、ほとんど間を置かず、会話のウィンドウがポップアップした。珍しい。何かとウィンドウを注視する。

『ニユース見た？』

友人の一人からのメッセージであった。誰しもがそうだと思うが、今朝見たニユースについて議論し合うような建設的な友人関係ではもちろんない。くだらない会話を益体もなく繰り広げる、それが常のことだ。

『いいや。なんで？』

『中華がアメリカと戦争始めたんだってwwwwww』

『またかよ。何回目だ』

2000年辺りに起きた経済戦争から数えて……ああ、駄目だ、面倒くさい。こんな歴史をいちいち記憶メモリーに突っ込んでおく必要はない。検索ググすればそれでいいのだ。

『他人事ツスカwwwwww俺アメなんスけどwwwwww』

そうだっけ。すっかり忘れてた。翻訳機能の弊害がこんな所に出してしまった。というか、きつと、いらない記憶をすぐに抹消してしまう俺のくせのせいなのだろう。まるで鳥頭だった。

『そういえばそうだな』

『だからさー、今度そっち行っていていい？ 巻き添えやだし』
『いいよ』

『やった！ その時あれやらせてよあれ、前言ってたロリエロゲ』

『買ってなかったのかよ』

『だって売ってねーし。規制きびしす。つーかあんなの売るの日本しかムリ』

『まあいいけど。コンプに1000時間くらいかかるぞ』

『一年くらいそっち住むわ』

これがいつもどおりの会話だ。

絶望的な空気が一目で分かってもらえると思う。文字列を追うだけでも一目瞭然だ。そして、一応は自覚している。改める気はないが。きっとこれ以上は誰が見ても苦痛に違いないため、仔細な描写は控えておき、適当なところで会話を切り上げ、約束の時間などを取り決め、メッセンジャーのウィンドウを閉じた。

そして改めて、電気豚の方に注意を向ける。

そうか、あいつが来るなら、あれを捌いてもいいかもしれないな。ちよつと小さいが、若い電気豚は美味い。そろそろ食べ頃といっても良いだろう。食事が必要としない俺たちのような電人にも、肉の美味さは理解できる。デスクトップ地べたのステータスバーに座しながら、俺はぼんやりと考えていた。こっちに来るよりも先に、米国のサーバーがダウンしたりしていなければ良いのだが……。

(後書き)

才手無い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7168u/>

電気豚の餌は黒歴史

2011年11月16日11時28分発行